

収集作業員の **なあ～聞いて～!**

(その4)

月に一度各地区で収集している、植木剪定くずは町内の作業所でウッドチップに生まれ変わっているのをご存知でしたか？町の収集車の横に書いてある、

「分ければ**資源**まぜれば**ごみ**」のとおり、植木を剪定した際の枝や葉などがウッドチップになるのです。が、しかしなかには、雑草や雑草についた土、加工した木片、竹、軍手、などが一緒に袋に入っていることがあります。先日など腐った玉ねぎが3個入っていました。



収集の時にわかれば啓発を行うのですが、わからないで紛れ込むこともしばしばあります。



この機械の中で大きな「なた」のような刃が回転して粉碎しています

この中へ剪定くずなどを入れます

あぶないの棒で押し込む

剪定くず以外が入っていると、刃が欠けたり機械に絡まったり、故障の原因になります。そして何よりウッドチップとしての効果がなくなってしまいます。このウッドチップには種子が入っていたりしますので、雑草の発芽抑制の効果はあまり見込めませんが、栄養豊かな土になり家庭菜園の土壌改良材として役だっています。



1回の収集で約2トンから6トンの剪定くずが集まります(その内、多い時で2割程度捨てる事があります)



作業の様子です。この写真を撮ったのは、9月の上旬です。
帽子、マスクにサングラスそれと粉塵が作業服の中へ入らないように襟元を締めて炎天下の中での作業です。
この作業場には、電気、水道がないので水を事務所から運んで作業が終わればその水(湯・・・)で手や顔を洗っています。



今回の作業で円の部分に新しいウッドチップが積み上げられました



出来あがったウッドチップは、大きな袋に入れ、本庁、吉川支所の駐車場へ持ち帰ります。
このウッドチップは、地域の方(家庭菜園等)に利用されています。

しっかり分けて**ごみ**を出さずに

資源にしませんか？

